

# 原発性肺癌の薬物療法における組織型・分子マーカー

## を基にした新しい治療戦略開発に関する研究

### 【研究対象者の方へ】

本研究は九州大学病院消化器・総合外科（第二外科）において2009年4月から2010年8月までに原発性肺癌で手術をされた方を対象に研究させていただきます。

もし対象者となることを拒否される方は、下記連絡先まで御連絡ください。

### 【はじめに】

肺癌の積極的治療には、外科療法、放射線療法、薬物療法などがあります。化学療法は、抗がん剤を使ってがん細胞を死滅させたり、全身への広がりを抑える治療法です。近年、原発性肺癌に対して分子標的薬や新しい代謝拮抗剤が薬物治療に用いられており、今後の原発性肺癌に対する薬物療法は、さまざまな分子マーカーや組織型に基づく薬の選択が必要となりつつあります。

### 【研究内容】

本研究では、原発性肺癌において、抗がん剤感受性と臨床病理学的因子との関連を調べ、分子生物学的マーカーの発現や遺伝子状態との関連について後ろ向きに検証します。

対象：2009年4月から2010年8月までに原発性肺癌に対して当科で手術を受けた症例91例。

方法：1) 診療記録、画像情報、病理検査レポートから臨床データを抽出します。

2) 手術切除標本を用いて、抗がん剤の標的分子あるいは代謝酵素である TS、DHFR、GARFT、RFC、FPGS、GGH や DNA 修復関連分子である ERCC1、SIRT1、p53 の mRNA 発現を qRT-PCR 法にて、蛋白発現を免疫組織化学染色法にて検討します。

3) 手術切除標本を用いて、抗がん剤感受性に影響を与えると考えられる *p53*、*kras* の遺伝子変異の有無をダイレクトシーケンス法にて検討します。

4) 原発性肺癌における抗がん剤感受性試験結果と上記 mRNA 発現、蛋白発現、遺伝子状態との関連を検討します。

### 【研究予定期間】

研究を行う期間は2013年3月までと考えております。

**【医学上の貢献】**

本研究により、抗がん剤感受性に影響を与える臨床病理学的因子、分子生物学的マーカーが明らかとなり、個別化治療への可能性が期待され、医学上の大きな貢献になるものと考えています。

**【研究機関】**

九州大学大学院	消化器・総合外科	教授	前原	喜彦
		准教授	矢野	篤次郎
		大学院生	吉田	月久

**【連絡先】**

〒812-8582 福岡市東区馬出 3-1-1  
九州大学大学院 消化器・総合外科  
担当：吉田 月久  
TEL：092-642-5466  
FAX：092-642-5482